

献血はとても身近なボランティア

「私やります!」献血宣言!!

みなさん、献血をしたことがありますか？
献血とは、自らの意志で見返りを求めずに自らの血液を提供することです。

現在、全国的に献血者数が落ち込んでおり、県内でも少子高齢化の進行を背景に、特に、若い献血者が減少しています。

こうした中、県では沖縄県赤十字血液センターと協力し、献血を広く理解してもらうため各種キャンペーン等を実施しています。

献血はなぜ必要？

大きなけがなどによる大量出血や血液の病気の治療には、血液をもとにした製剤（薬）が必要になります。しかし、血液は現在のところ人工的につくることはできず、また、生きた細胞であるため、長期間保存ができません。

このため、血液をもとにした製剤が必要で、必要な患者さんへ必要ときに必要なだけ提供されるためには、多くの健康な人たちの献血への協力が必要です。

沖縄県の献血の状況

県では、医療機関からの需要予測等に基づき献血確保目標量を設定しています。

県内の平成十五年度の献血者数は五万五六一四人（目標の九四・九％）でしたが、目標達成には至りませんでした。

また、ここ数年、赤十字血液センターに保管されている血液製剤の在庫率が七〇％を切る、いわゆる「危険在庫率」の状態に陥るといふことが



パレットくもじの久茂地献血ルーム

若者の献血離れ

血液製剤が県内で自給できない原因としては、人の流れの変化に伴う（北谷町美浜や天久新都心の開発による）久茂地献血ルームの献血者数の落ち込みや、不況による献血協力企業の減少等が挙げられますが、若者の献血離れも一つの要因となっています。

県内の十代、二十代の献血者数の割合は、この数年間減少傾向にあり、その一方で、その他の年代は増加し

していただいた個人や団体に対して表彰を行います。そのほか、輸血経験者による輸血体験談の発表や、メンバーにも輸血経験者がいる県内の若手インディーズバンド「ピッピ隊音楽部」のライブも予定しています。若いみなさんの参加、お待ちしております。

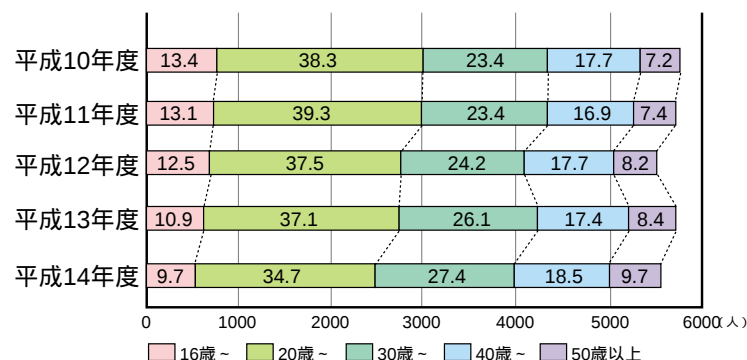
あなたの元気を分けてみませんか？

今後の県内における血液の安定的な確保には、これからの献血を支えていく若い人を中心とした県民の皆様の善意の献血が不可欠です。

また、献血の際には血液検査（肝機能やコレステロール値等）を行うので、定期的に献血することで、自分の健康チェックを行うこともできます（ただし、肝炎やウイルス検査等を目的とした献血は固くお断りしています）。

献血は、健康な人なら誰でもできるとても身近なボランティアです。血液を必要としている人に、あなたの元気を分けてみませんか？

年代別における献血の推移（％）



ています。

このことは、社会の高齢化を反映し、献血者全体の高齢化が進んでいることを示しています。

さらに国のアンケート調査によると、学生時代の献血の経験がその後の献血協力への動機にも繋がっていることが示されています。

このように、県内人口の高齢化が進む中、血液製剤の需要が高まる一方で供給する側が減っていくことにより、献血の需給バランスが崩れることが懸念されています。

若者を対象とする献血確保のための取組み

こうした中、県と赤十字血液セン



●お問い合わせ
県業務衛生課
TEL.866-2215
FAX.866-2241